

メタボジェニック療法にて、ガン・難病治療を成功に導く方法  
世界中のガン難民、難病難民救済！ 症例報告Vol.1

医療法人社団 永徳会編

# 開業医 藤田 亨 の自己紹介

- 平成3年3月 慶応義塾大学 医学部卒業 70回生
- 平成3年4月 慶応義塾大学病院 内科 血液研究室  
入局勤務
- 平成8年5月 東京歯科大 市川総合病院勤務
- 平成9年7月 ソニー株式会社 医務室勤務
- 平成10年3月 皿沼クリニック開設 院長となる
- 平成14年2月 医療法人社団 永徳会 設立 同会  
理事長就任
- 平成14年7月 医療法人社団 永徳会 皿沼クリニック始動
- 平成25年3月 女性の美容と健康に関する知識を役立て  
てもらい少子高齢化を阻止 するべく立ち上がる。

# メタボジェニック療法の臨床研究

米国南カリフォルニア大学(USC)の研究者、ドクター・バー博士が開発した、メタボジェニック療法は自然な薬草類などを配合したサプリメントや点滴薬剤などにより、アメリカ、ベトナム、ベラルーシなどで数多くの末期ガン患者を救ってきた実績(一部次ページ参照)があります。細胞内外の代謝アンバランスやイオン交換のアンバランスなどを調整する、まったく新しい概念の治療法により、バー博士の滞在した、ベトナム、アメリカで、すい臓がんや肺がんなど致死率の高い進行したガン患者を多数救ってきた実績の報告がありますが、日本でも同様にがん治療に対する治療効果が発揮されるのか、治療(実臨床)の積み上げによる症例研究を多施設共同で行う。

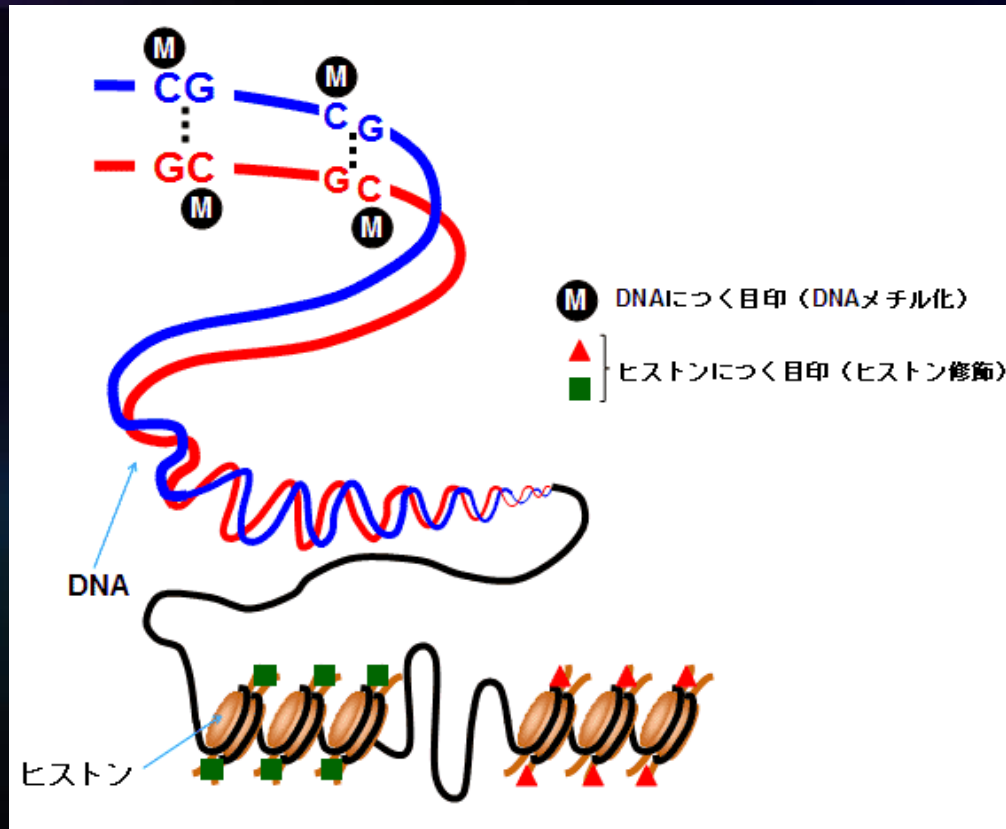
# メタボジェニック療法の作用機序(その1)

ガンは代謝性疾患との認識です。主に遺伝病ではなく、慢性ストレスへのエピジェネティックな反応であるという認識です。酸化還元反応は、生体内のエネルギー変換の中心です。酸化と還元は常に一緒になります。ガン細胞は、典型的には、異常なエネルギー代謝を有するため。我々のアプローチは、正常細胞とは異なるガン細胞および他の異常な増殖細胞の最も一般的な特徴を標的とすることです。長年にわたり、鉄と銅、亜鉛、マンガン、セレンイオンなどのガンとミネラルとの関係が認識され、議論されてきました。最近の研究は、ミネラルが腫瘍微小環境および転移において役割を有することも示しています。ミネラルの獲得、流出、貯蔵および調節の経路は、全てのガンにおいて、正常細胞と異なっており、ミネラル代謝が腫瘍細胞の生存の中心的な側面であることを示唆しています。

## メタボジェニック療法の作用機序(その2)

我々の治療法は以下の仮説に基づきます:細胞のミネラル輸送機構を最適化し、細胞の酸化-リン酸化を補正し、異常なエネルギー代謝を回復させ、細胞能力を増強するのを助けることでガン治療を行える。この成分は細胞内に拡散する(受動拡散)。エネルギー効率の低いガン細胞はガン細胞の細胞質から余分な成分を排出することが困難であり、蓄積された成分はガン細胞を阻害する可能性がある。一方、エネルギー効率の高い正常細胞は、細胞への毒性効果なしに細胞質から余分な成分を除去することが可能である。我々はこのような機能を果たす成分の組み合わせを検証・開発してきました。

# エピジェネティクスについて

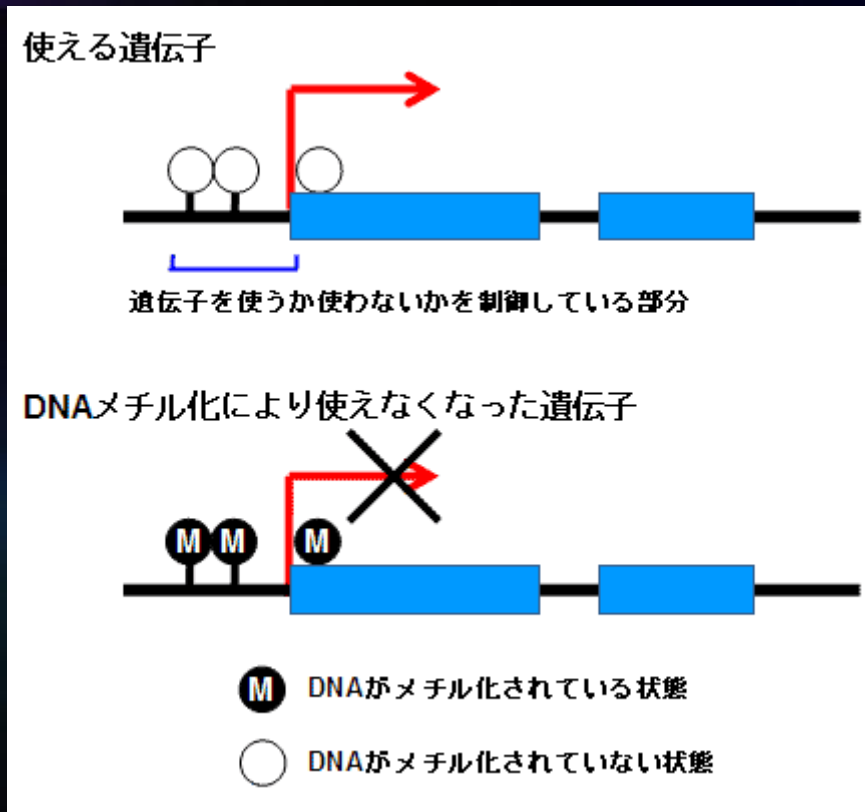


私たちの体は皮膚、胃、肝臓など様々な組織から出来ており、これらは別々の細胞で構成されている。どの細胞も基本的には同じ遺伝情報を持っているのに、別々の細胞になれるのは、使う遺伝子と使わない遺伝子に目印をつけているからである。エピジェネティクスとは、これらの目印を解明する学問である。皮膚から胃ができないことに象徴されるように、**エピジェネティックな目印の特徴は、一旦つくと、容易にははずれない**ということである。細胞内のDNAは、ヒストンとよばれる蛋白質に巻きついてできている。**エピジェネティックな目印には、DNAにつく目印(DNAメチル化)とヒストンにつく目印(ヒストン修飾)の2つが知られている**

# DNAメチル化について

DNAメチル化は、ヒトのように複雑な生物の体を正確に形づくるために必須の仕組みである。細胞の種類を決めることのみならず、遺伝子が父親由来か母親由来かによって使われ方が異なるという現象(ゲノムインプリンティング)や、女性が持っている2つのX染色体のうち1つが不活性化されるという現象(X染色体不活性化)などにも深く関わっている。更に、ガンなどの疾患では、DNAメチル化のパターンが異常になっている。

# DNAメチル化による遺伝子の不活化

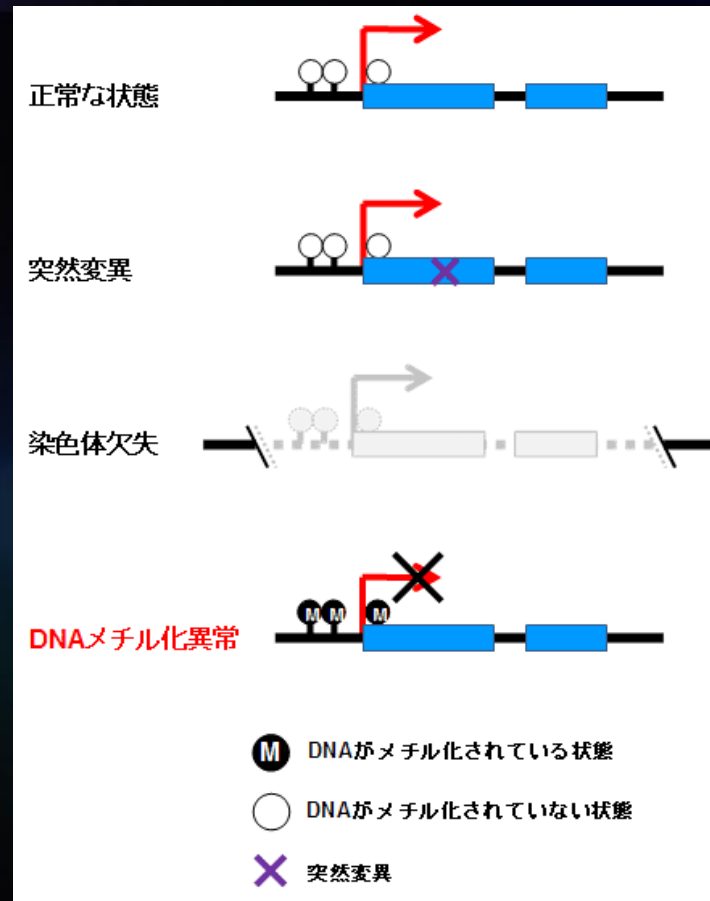


DNAのCpGという配列の部分でCに-CH<sub>3</sub>という分子(メチル基)がつくのがDNAメチル化  
遺伝子を使うか使わないかを制御している部分(プロモーター)がメチル化されると、遺伝子は使えなくなる。

ガンなどの疾患では、DNAメチル化のパターンが異常になっている。



# がん抑制遺伝子の3つの不活化機構



がん抑制遺伝子を不活化するメカニズムとして、**突然変異**、**染色体欠失**及び**DNAメチル化異常**が知られている。がん抑制遺伝子の**遺伝情報自体に変化**がなくても、**DNAメチル化異常**が起きると、**がん抑制遺伝子が使えなくなる**。

# 実際の治療の用量・用法

**A 剤** (医療用栄養補助剤) 成分: クルクミン入り活性炭、有機ゲルマニウム、ヨウ化カリウム、グルコン酸マンガ、リグナムサパンエキスなど。進行ガン患者向け標準的使用法: 毎食前2Capを服用。Cy剤成分: ベトナム産漢方茶 腫瘍壊死症候群を避けるために5日間内服後、2日間休薬。 食中2Cap内服 **C 剤** (医療用栄養補助剤) 成分: リボフラビン(ビタミン B2)、アスコルビン酸(ビタミン C)、メチルスルフォニルメタン(MSM)、グルコン酸マンガ、L-カルニチンマル酸塩など、食後2Cap内服。

**VF剤**: 1日3回2粒/食前(1時間前)※点滴(Z剤)の代用サプリ

**Z 剤** (点滴・内服液) 成分: 特許申請中成分(今年度中に特許内容開示により成分公開予定) 使用法: Z剤の点滴は1回10mlを500mlの生理食塩水に溶かして1ドロッ1秒で約3時間掛けて滴下します。または、Z 剤 3ml を100mlの水に混ぜ、1日3回から5回、食間に飲用するという方法も可能。ガン以外の治療について 固形ガン以外も原理的に各種病気に効果がある。COPD (慢性閉塞性肺疾患)、MDS (骨髄異形成症候群)、Mylofibrosia (骨髄線維症)への効果は確認されています。

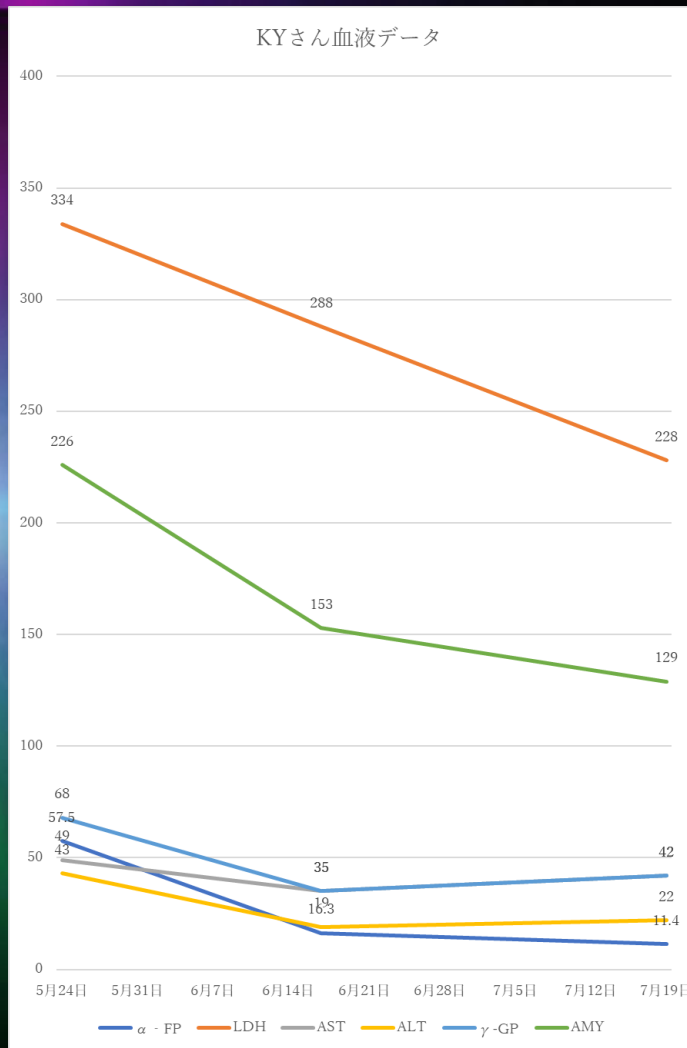
# メタボジェニック療法の奏効率

肝転移を伴う膵臓ガンでは3年以上の治療患者追跡が行われ、通常治療(三大療法:標準治療)では1年後の生存率18.3%、生存期間中間地で4.7か月の所、栄養補助剤(各種サプリメント:A剤+C剤のみの治療)で1年後の生存率77.8%、生存期間中間値で14.6か月という結果が得られています。3年の追跡がまだ未完了ですが、点滴薬による治療では更に高い結果を得ています。発見が遅れると致命的である膵臓ガンですら、上記の成績です。バー博士によると、通常認められる膵頭部ガンと膵尾部ガンの成績の差もないようです。

# KYさん 47歳女性 Vol.1

関東地方の某大病院にて、胃ガン(Ⅳ期:腹膜播種、肝転移)と診断され、ガン専門病院で抗ガン剤の治療(詳細不明)を4クール施行された。これ以上の抗ガン剤治療は、受けたくないと感じ、令和元年5/24当クリニック初診となる。初診時、朝起床時に全身倦怠感顕著であるため、副腎疲労が疑われた。他の副腎疲労の症状、PMSの悪化、生理不順、イライラ感、落ち込み感なども認められたため、ビタミンC、ハイチオール、ビタミンB2 B6、PPI(タケキャブ錠)十全大補湯などを処方し、アダプトゲン、フォスファチジルセリンなどのサプリの購入(iHerb)を勧める。PMSの悪化、生理不順はコルチゾールステイルによるものと考えられた。

# KYさん 47歳女性 Vol.2



同時に、メトジエニック療法のZ剤の点滴を10回行う。4回点滴後に料理を作るのが苦にならなくなったという。現在、喉が詰まる感じ以外の症状を認めず、食前のA剤、食中のCy剤、食後のC剤を内服している。喉が詰まる感じに対しては、漢方薬を十全大補湯から、半夏厚朴湯に変更した。

α-FP (ng/mL) LDH (U/L) AST (U/L) ALT (U/L) γ-GP (U/L) AMY (U/L) ( ) 内単位

# HHさん 77歳女性 Vol.1

近畿地方の某大学病院にて、骨髄異形成症候群からの急性白血病と診断され、同大学病院で抗ガン剤の治療（詳細不明）を1クール施行された。副作用顕著で、凝固の異常（深部静脈血栓症）も認められたため、抗凝固剤が投与されていた。これ以上の抗ガン剤治療は、受けたくないと感じ、令和元年5/20当クリニック初診となる。両側上下肢が、浮腫んでおり、点滴の刺入も困難、歩行困難であったが、メタボジェニック療法のZ剤の一回の投与にて、歩行が容易になり、気分が良くなったと話された。点滴の回数が増えるほど自覚症状が無くなり、点滴の刺入も容易になった。

## HHさん 77歳女性 Vol.2

3回点滴後に料理を作るのが可能になったということです。それまでは、息子と夫が料理していた。メタボリック療法のZ剤の点滴を10回行った後、採血を希望されず、近畿地方の自宅に帰宅された。帰宅時(令和元年6/1)には、すっかり元気になり、自覚症状は、無くなっていた。さらに点滴治療を継続してもらおうよう、お願いしたが、自宅近くで、受けると言い残して、帰宅された。帰宅後、点滴治療をしてくれる医療機関を探すのに苦労して、点滴継続できず、3週間後、芽球が急激に上昇したとお話があり、やっと見つけた点滴医療をしてくれる診療所で、Z剤の点滴を受けるも無効であり、その後、保険医療機関で入院するも入院後すぐ死亡された。私は、油断禁物と大いに反省した。

# HAさん 70歳男性 Vol.1

沖縄地方の某大病院にて、ATL(成人T細胞白血病)と診断され、同大学病院で**抗ガン剤の治療(詳細不明)**を1クール施行された。副作用顕著で、**食欲もなくなっており、寝たきりに近い状態**だった。これ以上の抗ガン剤治療は、**受けたくないと感じ、当クリニックを電話診療で受診**(本年7月10日)される。メタボジェニック療法の**VF剤**(点滴に匹敵する効果をもつ内服サプリ)が入ったサプリをお勧めして、**本年7月末から内服を始めた**。内服を始めた当初、**飲み込んだサプリを吐き出す**など治療を嫌がっていたが、娘の説得に応じ、**素直に内服**するようになった。



## HAさん 70歳男性 Vol.2

メタボジェニック療法のサプリメントを内服開始後、一週間で、食欲が回復し、非常に元気になったと娘から報告を受けた。同じころ、帯状疱疹を発症したとのことで、バラシクロビルを近くの開業医で、通常用量の半分(腎機能低下のリスクを考えた)を処方してもらい、更にその一週間後にヘルペスは、完治したと報告を受けた。9/4現在、3クール目のサプリメント注文している。近くの開業医で、採血をしてもらった所、7/20Hb 12.3g/dL→8/4Hb12.9g/dLと改善を認めた。寝たきりに近かった状態から、9/4現在では、運動をするまでに回復している。ただし、油断禁物のため、6か月は、メタボジェニック療法のサプリメントを内服するようお願いしている。

$\alpha$ FP (ng/mL) LDH(U/L) AST(U/L) ALT(U/L)  $\gamma$ -GP(U/L) AMY(U/L) ( )内単位

# 3大療法の弊害

手術療法は、局所療法なので、すべて取り切れないと再発・転移する。取り切りを狙って拡大手術をすると命取りになる。(逸見政孝さんの例)

抗ガン剤・放射線治療は、細胞分裂が盛んな細胞をターゲットにしている。

従って、昼間に投与すると正常細胞でも細胞分裂が盛んな細胞が犠牲になる。

抗ガン剤・放射線治療の副作用：消化器症状・脱毛・生殖器の障害。

# 食事療法

ガン細胞の栄養源は、ブドウ糖です。ガン細胞中では、嫌気性解糖系という非常に非効率なエネルギー産生系が亢進しています。ガン細胞の中では、ミトコンドリアの中で行われるTCA回路は、ほとんど稼働していません。

ブドウ糖の摂取を少なくすれば、ガン細胞を兵糧攻めにすることができます。しかし、同時に免疫細胞も機能低下することを考慮(マイルドな糖質制限: 食事の30分前に、野菜ジュースor青汁を100ml~200ml飲用)する必要があります。

逆に血液中に利用されないブドウ糖が多量に存在する糖尿病では、ガンの発生率が高いと言われていています。

# 食事療法①

推奨する食事としては、和食・地中海式食養生です。いわゆるペスカリアン(漁師風食事)が良いとされています。先のWHOの研究結果の発表によると50グラムほどの加工肉を毎日食べると大腸ガン発症率は最大18%に、赤身肉100グラムの場合は17%ほど高まる可能性があると指摘されています。私は、肉の種類にもよると考えます。牛は、ライフサイクルが長いので危険です。クロイツフェルトヤコブ病も牛にしか発症しないことが分かっています。牛や羊などの反芻動物では、肉に天然のトランス脂肪酸を蓄えています。トランス脂肪酸に発ガン作用があるという研究もあるようです。結論として、野菜と魚介類を中心にした食事、肉を食べるなら、疲労回復物質が豊富でライフサイクルの短い、鳥の胸肉。鳥のささみ、豚肉のロースで脂のない所がおすすめです。

# 和食



## 食事療法② ブロッコリー

野菜の種類としては、アブラナ科の野菜中でもブロッコリーがお奨めです。次点で、緑黄色野菜特にゴーヤです。ブロッコリーやカリフラワーなどアブラナ科の植物が、ガンの幹細胞を殺し、増殖まで抑える効果があるという研究結果が出ています。

この研究を行ったのは、サウスダコタ州立大学のモウル・デイ助教授と研究チームです。彼らはガン予防の分野で注目されているフェネチルイソチオシアナート(以後PEITC)の合成物や酵素が、ブロッコリーやカリフラワーなどに含まれていることを見つけました。そして人間の子宮頸ガン細胞をペトリ皿に置き、PEITCを加えて観察しました。その結果、24時間以内に75.0%のガン細胞が死滅しました。ガン幹細胞自体を破壊することにも成功しました。さらにマウスの肺組織にも効果を発揮し、ガン細胞およびガン幹細胞の成長を阻んでいることも確認されました。

## 食事療法③ ゴーヤ

インド・スリランカ発祥の**伝統医療**、**アーユルヴェーダ**では、**何世紀の間**、**健康を維持する機能性食品**として**ゴーヤが推奨**されてきました。何の効果もない野菜を何世紀もの間、摂取し続けることは、あり得ません。ゴーヤの**原産地**は、**インドから東南アジアにかけて**であるとされています。次の**デザイナーズフーズプログラムのピラミッド**には、載せられていませんが、非常にガンに対して奏効率の高い、GPCC(旧**ジェネピック**)というサプリメントの中には、**ゴーヤが含まれています**。

# スーパーフルーツ

ノニ(イリドイド配糖体)、ゴジ(カロテノイド・クコ多糖類)、アサイー(アントシアニン)、サジー(カロテノイド・フラボノイド)、マンゴスチン(キサントン:ポリフェノール) ( )内は有効成分

具体的には、ノニ・ゴジ(クコの実)・アサイー・サジー(沙棘)・マンゴスチン等を指す。

抗酸化能ORAC値が、一般のフルーツに較べて非常に高いことが分かっています。その原因のファイトケミカルは、ポリフェノールやイリドイド等(上記に記載)とされています。

ORAC(Oxygen radical absorbance capacity 酸素ラジカル吸収能:活性酸素除去能を数値化したもの)日本ではORAC値と呼ばれるようです。

アメリカのUSDAアメリカ合衆国農務省(United States Department of Agriculture)の栄養データラボ(NDL)が発表した数値です。